

事務事業評価シート

(平成 24 年度実施事業)

事務事業名	盛岡デー開催事業			事業コード	1568
所属コード	132000	課等名	観光課	係名	観光推進担当
課長名	吉 田 春 彦	担当者名	中 嶋 亮	内線番号	3727
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	活力ある産業の振興	コード	5
	施策	地域資源をいかした観光・物産の振興	コード	4
	基本事業	観光地づくりと観光客の誘致	コード	1
予算費目名	一般会計 7 款 1 項 3 目 観光 PR 事業 (002-04)			
特記事項				
事業期間	☐ 単年度 ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度		開始年度	平成 18 年度
根拠法令等				

(2) 事務事業の概要

盛岡の観光・文化・特産品・祭りなどを総合的に P R するイベントを開催する。

(3) この事務事業を開始したきっかけ (いつ頃どんな経緯で開始されたのか)

文化催事や観光プロモーションなど別個に行っていたイベントを集約し、総合的な P R を行うため、平成 18 年度から開催した。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

首都圏のほか沖縄でも開催し、プロモーションを行っており、海外展開を求める声もあるが、より効果的なプロモーションのため集約を図る必要がある。

また、近年は、特産品ブランドの紹介に重点が置かれており、観光・文化の発信の機会が少なくなっている。

2 事務事業の実施状況（Do）・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 対象（誰が，何が対象か）

首都圏在住者，沖縄県民

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 見込み
A 首都圏人口	万人	3,400	3,400	3,400	3,400	3,400
B 沖縄県人口	万人	139	140	138	141	141
C						

(3) 24 年度に実施した主な活動・手順

7 月にイオン板橋店において盛岡デー・イン・東京，文京区において啄木学級文の京講座，
11 月にイオン琉球店舗においていわて盛岡デー・イン・沖縄を開催した。

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A 開催延べ日数	日	13	10	10	8	10
B						
C						

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

盛岡の観光・特産品・祭り・文化に親しんでもらうことにより，盛岡への旅行者，盛岡の特産品購入者を増やす。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A 観光客入込数	■上げる □下げる □維持	万人 回	444	466	470	471	490
B 売上高	■上げる □下げる □維持	千円	54,857	36,299	31,500	9,533	60,000
C	□上げる □下げる □維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	22 年度実績	23 年度実績	24 年度計画	24 年度実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0
	②県	千円	6,500	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	0	3,500	3,500	3,500
	⑤その他()	千円	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	6,500	3,500	3,500	3,500
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	200	200	200	200
	B 職員人件費 ⑥×4,000 円	千円	800	800	800	800
計	トータルコスト A+B	千円	7,300	4,300	4,300	4,300
備考						

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

盛岡の観光・文化・特産品・祭りに触れ、親しんでもらうことで観光客誘致につなげる意図であり、総合計画の施策の目的に結びついている。

② 市の関与の妥当性

盛岡のイメージアップは市が行うべき事業であり妥当である。

③ 対象の妥当性

盛岡のイメージアップを図るため、人口が多い首都圏及び盛岡とつながりを持つ沖縄県を対象にしていることから、妥当である。

④ 廃止・休止の影響

盛岡のイメージアップと宣伝に寄与しており、廃止・休止は成果の低下につながる。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

特産品の販路拡大や観光客誘致に結びつけるためには、ターゲットを絞って盛岡デーの開催地を再考する必要がある。

(3) 公平性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

特定の受益者はいない。

(4) 効率性評価

類似事業と統合することで事業費及び人件費を削減することができる。

4 事務事業の改革案（Plan）・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 改革改善の方向性

盛岡への誘客や特産品の販路拡大を考えた場合、首都圏や東北圏での開催が最も効果が高いと想定される。効果的な開催地を選定し、継続的な展開を図ることで成果の向上に結びつくものと考えられる。

また、類似の事業（観光物産展等）との統合を図ることで、一体的な展開が期待できる。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

開催場所を再検討する場合には、予算の関係から沖縄県での開催が困難になる。

しかし、現在、盛岡デーはうるま市との交流事業の一つに掲げられていることから、代替事業の実施について、交流事業担当部署との調整が必要となる。

観光物産展との統合については、他の実行委員会との調整が必要となる。

5 課長意見

(1) 今後の方向性

- ☐ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☒ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- ☐ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

近年，首都圏と沖縄で開催されているが，同種の事業との運営方法等相違点を再検討し，統合の方向を探る。